



- ・上記の多様な調理を同時に行うことが可能です。
  - ・調理後は、自動洗浄機能で営業終了後、オープン内を洗浄します。
- 以上の機能をフル活用することで、省力化による人手不足解消や時間短縮で生産性に繋がります。

## 6. 補助事業により生産性向上となる取組内容

### 6-1. 現在の状況

生産性向上に取り組む事業等の現在のやり方、課題等を詳細に記載してください。

- ・飛び込み客のオーダーが殺到してしまうと、調理担当の作業が増え、お客様の待ち時間は理想の10分以内より長く20分くらいかかってしまうことも少なくありません。その為、客の滞在時間は1時間20分以上になり、客席10テーブルのランチタイムは2回転が精一杯です。
- ・週末は予約が多いことに伴い、仕込み量も多くなり、作業が深夜に及びます。調理担当が現在2名で2時間30分かけて行っておりますが作業が多く担当への負担が大きい状態です。

### 6-2. 設備等の導入に伴い生産性向上となる状況・効果

導入した設備等により、どのような事業、改善に取り組むのか、また、取り組みの結果として、「4. 補助事業により狙う効果」でチェックした項目への効果等を具体的に記載してください。

今回導入するスチームコンベクションオープンの導入で、

①多品種同時調理が可能のため、調理時間短縮になります。

例えば、肉料理と魚料理のオーダーが同時に入っても、同時調理が出来るので時間短縮になり、提供までのリードタイムを短縮できることで、客の滞在時間も約20分短縮になり、休日のランチタイムの回転期間は、10テーブルで3回転は十分可能となります。

②メニュー登録後はボタン1つで均一に仕上がるので人手不足の解消に繋がります。

③営業終了後も自動洗浄機能がついているため、閉店作業の時間も短縮になり、その分仕込みに人員を重点的に配置することができます。その結果、メニューを増やすことが可能になります。

上記のとおり、回転数、作業の効率化が見込めるため、メニュー増加で顧客サービスが向上します。

## 7. 事業収支計算書

6-2に記載した、設備等の導入に伴う生産性向上により、どの程度付加価値額が増加するのかを数値で表してください。

(単位：千円)

	R7年12月期	R8年12月期	R9年12月期	R10年12月期
	前期※1	1年目	2年目	3年目
① 売上	50,000	51,000	53,550	56,227
② 営業利益	3,500	3,431	4,445	5,618
③ 人件費※2	19,500	19,950	20,403	20,859
④ 減価償却費※2	2,300	2,500	2,500	2,500
⑤付加価値額 (②+③+④)	25,300	25,806	27,348	28,977
⑥付加価値額増加率※3	-	2%	8%	15%
⑦給与支給総額	17,550	17,888	18,363	18,773
⑧給与支給総額増加率	-	2%	5%	7%
⑨従業員数	8	8	9	9
〔内訳 正社員〕	3	3	3	3
〔非正規社員〕	5	5	6	6

※1 前期は令和7年4月～令和8年3月の間に到来する決算期とすること

※2 製造業においては、製造原価と販売費及び一般管理費との人件費を合算して記載すること

※3 3年目に付加価値額増加率が4.5%以上になる計画とすること

上の表に記入したうえで、数値算定の根拠(単価、数量)について具体的に記載してください。

R8年12月期は、影響はあまりありません。R9年12月期以降は、売上について、現在ランチ2,000円(客単価)×25(座席数)×2回転=100,000円としていますが、3回転が実現すれば50,000円/日増加が見込めます。その結果、月に400,000円の売上増は十分可能になります。以降も、平日のランチタイムの回転数や顧客単価の向上により年5%の売上増を計画します。

減価償却費は今回導入する設備分で、年20万円ほど増加します。

人件費は年2%の賃上げと、2年目でのパート従業員1名の雇用増により、3年目までに400万円の増加を見込みます。

## 8. 賃上げ計画

給与支給総額の増加に向けた今後3年間の賃上げ計画について、具体的に記載してください。

2年目以降

・アルバイトの時給値上げ

売上が増加した後、勤続年数や、経験等により平均して100円の値上げをします。

・正社員の賃上げ

賞与は年間10万円(正社員3名全員同額)を増額するなど、全体で2%の賃上げを行います。

## 9. 資金調達の方法

区分	金額(単位：千円)
----	-----------

必要経費	設備投資額	2,000
	その他	
	計	2,000
資金調達額	政府系金融機関	
	民間金融機関	2,000
	自己資金	
	その他	
	計	2,000

上の表に記入したうえで、補助事業に係る必要経費と資金調達の方法、借入予定金融機関名、相談状況(補助金を受けるまでの資金繰りを含めて)について具体的に記載してください。

※ 補助事業実施後、補助金交付までは期間を要する場合がありますのでご注意ください(参照：公募要領 P.17)

- ・メインバンクである〇〇信用金庫に借り入れ予定です。
- ・補助金の紹介も〇〇信用金庫から紹介され、補助金が採択されれば融資可能と内諾を得ています。

## 10. 実施スケジュール

番号	実施項目	実施時期
1	交付決定通知書受領	令和8年8月
2	見積もり業者に発注	令和8年9月
3	スチームコンベクションオープン導入	令和8年11月
4	実績報告書提出	令和8年12月

※ 補助対象経費の導入時期、実績報告書の提出時期については必ず記入すること

上の表に記入したうえで、期間を要する内容(必要とする許認可や取得の見込み等)に応じて以下に詳細を記載してください。

- ・補助実施する際に必要とする許認可はありません。
- ・設置場所は業者と寸法を測って確認済。
- ・商品に関しては十分に数があるので品切れ等なく、発注後はスムーズに導入可能と確認済。
- ・導入工事は2日間程で完了見込み。